

人間国宝

歌舞伎俳優

坂東玉三郎

お話と素踊り

坂東玉三郎

お話コーナー

地唄舞「残月」

※演目は「葵の上」から変更になります。

坂東玉三郎

坂東玉三郎

2025年3月2日(日) 13:30開場
14:00開演

カナモトホール (札幌市民ホール 札幌市中央区北1条西1丁目)

SS席 10,000円(税込) S席 9,000円(税込) A席 6,800円(税込)

主催/STV札幌テレビ放送、テンポプリモ、サンライズプロモーション東京
後援/札幌市、札幌市教育委員会 特別協力/STVラジオ

※券種によって完売の場合がございます。詳しくはHPでご確認ください。※車椅子席ご希望の方は、道新プレイガイド(TEL.0570-00-3871)へお問い合わせください。※未就学児のお子様はご入場いただけません。お子様の膝上での鑑賞はできません。※やむを得ず開催を中止する場合は、STVホームページでお知らせいたします。※チケットの販売場所は休業になる場合がございます。各HPにてご確認ください。

チケット
取り扱い

- チケットぴあ (Pコード: 529-667) ※WEBおよびセブン-イレブン店頭マルチコピー機
- 道新プレイガイド ※店頭およびWEB、電話TEL.0570-00-3871 (10:00~19:00/火定休)
(札幌市中央区南1条西1丁目8-2 高桑ビル MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店 地下1階)
- セイコーマート 店内マルチコピー機 (セコマコード: D25030201) ※販売期間は12/4~2/23まで。
- 札幌市民交流プラザチケットセンター (札幌市中央区北1西1 札幌市民交流プラザ2階)
- ローソンチケット (Lコード: 11696) ※WEBおよびローソン店頭Loppi

【車椅子席のお取り扱い】
車椅子席のお取扱いは下記まで
お問い合わせください。
● 道新プレイガイド窓口 TEL.0570-00-3871
● 札幌市民交流プラザチケットセンター
※店頭での受付は、各店舗営業時間が
異なりますのでお気をつけください。

お問い合わせ

STV札幌テレビ放送 事業部
TEL.011-272-8659 (土・日・祝日を除く10:00~17:00)「STVイベント」HP、
公式SNSで
最新情報を更新中!

STVイベント

検索



この度、出演者坂東玉三郎の希望で素踊りの演目を地唄舞「残月」に変更する運びとなりました。江戸時代初期からの伝統を継ぐ、地歌争曲における屈指の名曲「残月」。大阪松竹座初春公演でも舞われる、晴れやかな舞台にふさわしい演目です。洗練された舞とその余韻をたつぷりと堪能くださいませ。以下、ご本人のコメントをご覧ください。

皆様こんにちは

坂東玉三郎でございます。

今回「葵の上」の素踊りを

予定しておりましたが、

皆様が少しでも

晴れやかなお気持ちに

なれますようにと、

演目を「残月」に変更

させていただきました運び

となりました。

皆様、劇場で

お待ちしております。

坂東玉三郎

sunrisetokyo

〇二一年の夏に始まった「お話と素踊り」の公演。劇場にまだコロナ禍の影響が残る時期に満員の観客で埋まった客席は、夏の暑さとは違う熱がありました。

「今の時代、携帯電話やパソコンの画面越しにリモートで話すことができますが、やはり、直接会って対話をする、舞台と客席とはいえ触れ合うことができる、そのことを皆さんが待っていてくださったんだと改めて感じました。それは自分にとっても非常な喜びでした」という言葉通り、玉三郎さんは歌舞伎座や南座、大阪松竹座などで歌舞伎公演を勤めるなか、全国各地のお客様に会いに行き、この公演を続けています。そして四年目を迎える今回は、素踊りでの地唄舞の演目がこれまでの『雪』から『残月』へと変わります。

作曲家は『雪』と同じ、^{なみさき とうとう}峰崎勾当。峰崎の門人だった大坂宗右衛門町松屋某の娘が夭折したことを偲んで作られた名曲です。娘は箏の名手で才媛であったと伝えられ、曲名はその法名「残月信女」からつけられたといわれています。曲はもちろん、月の情景が命の儚さをそこはかとなく照らすような叙情溢れる歌詞も美しい作品です。

磯辺の松に 葉隠れて
沖の方へと入る月の 光や夢の世を早う
覚めて真如の明らけき
月の都に住むやらん
今はつてだに朧夜の
月日ばかりはめぐり来て

磯 辺の松の葉に隠れながら、ついには遠い沖へと消え入ってしまう月のように、この世を去ってしまった。今は真実の光がさす浄土、月の世界にいるのでしょうか。もう便りしても朧夜のように伝わらず、月日ばかりがめぐってくる——短い生涯を閉じた娘への思いが胸に響きます。玉三郎さんはこの曲と歌詞に心を打たれ、二〇一九年八月歌舞伎座で主演とともに演出も勤めた『新版雪之丞変化』で、仇討ちを果たした雪之丞がその虚しさにかみざめと引っ込んでゆく際に、「今はつてだに……」からを流したそうです。

時空を越える、豊潤な時間

文 大木夏子(編集者ライター)

追 憶や鎮魂が込められている歌の成り立ちから、追善曲として上演されることも多い『残月』。歌と歌の間奏に重きをおかれた手事物の代表作であるこの曲について、地唄の名人初代富山清翁に「昔を思い出して奏でていればいいんだよ」という話を聞いたという玉三郎さん。振付にあたってはその話をいかして、「早くに亡くなってしまった若い女性が蘇って、しばし二人での楽しい時間が過ぎてゆく。そして、ふたたび月が出た時にやっぱりその人はいなかったんだな、というようなものにできたら」と考えを明かします。そして、「もしかしたら、皆様のなかにも先に逝かれた人のことを思う方もいらっしゃるかもしれないですし、夜空に輝く月を見た時の虚しさ、あるいは清々とした思いを感じていただけるように」と続けました。

地 唄舞は削ぎ落された静かな動きで見せる舞で、作品の多くは十数分のもの。江戸時代には遊里や座敷のような狭い空間で舞われていました。しかし、玉三郎さんの舞は、ほんの小さな動きから深い情感が滲み出て、劇場空間が宇宙のように広がっていく感覚に誘います。十数分の時が一瞬にも何時間にも感じられるような陶酔。「短かければ短いほど、幕が開いた時にどういった時空を背負っているかということが大事だと思うのです」と話す玉三郎さんの踊りには、その人物がこれまで辿ってきた人生を感じさせる引力があります。と同時に、坂東玉三郎という比類なき女形の魂に触れるような感動もあるのです。

地唄舞を初めて舞ってから三十年の月日がたつという玉三郎さん。その魅力を「音の余韻のなかに詞が入っていく。その余韻のなかで、いろいろな空間を想像できることが、地唄舞のひとつの醍醐味だと思います」と語っています。『残月』のなかに、煌々と光る月が見えるのか、朧に淡く光る月が見えるのか、観客の数だけその月の光があるのかもしれない。

稀 代の女形のプライベートが垣間見える楽しい「お話」から、その真髄を堪能できる「踊り」まで。時空を飛び越えて豊潤な時間をお楽しみください。

玉三郎さんへの質問募集

坂東玉三郎さんが会場であなただけの質問にお答えします!

締め切り:2025年2月16日(日)

【インターネットの場合】https://docs.google.com/forms/d/1ALdZXf0AKLsYbOK7O6pq1V-FOT7ZuAPNQCEvxGiQ_KCE/edit

【メール・FAXの場合】

メール:tamasaburo-info@sunrisetokyo.com (件名:玉三郎さんへの質問)

FAX:03-3408-2061

①ペンネーム ②年齢 ③住所(市区町村まで) ④玉三郎さんへの質問



sunrisetokyo

坂東玉三郎



坂東 玉三郎 (ばんどう たまさぶろう)

1957年12月東横ホール『寺子屋』の小太郎で坂東喜の字を名のり初舞台。1964年6月十四代目守田勘弥の養子となり、歌舞伎座『心中刃は水の湖日』のおたまほかで五代目坂東玉三郎を襲名。泉鏡花の唯美的な世界の舞台化にも意欲的で、代表作の『天守物語』をはじめ数々の優れた舞台を創りあげてきた。また歌舞伎の枠を超えて、世界の芸術家まで大きな影響を与え、賞賛を得てきた。若くしてニューヨークのメトロポリタン歌劇場に招聘されて『鶯娘』を踊って絶賛されたのをはじめ、アンジェイ・ワイドヤダニエル・シュミット、ヨーヨー・マなど世界の超一流の芸術家たちと多彩なコラボレーションを展開し、国際的に活躍。映画監督としても独自の映像美を創造。2012年9月に、歌舞伎女方として5人目となる重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定、また2013年にはフランス芸術文化勲章最高章「コマンドゥール」を受章した。